

市民参加オンライン会議

まちづくり 何が必要？

若者や女性のまちづくりへの参画を促進しようと八戸市は12日、市庁をメイン会場に若者マチナカ会議をオンラインで開いた。高校生から40代までの市民ら計28人が参加し、各方面で活躍する同市のゲストスピーカー4人や熊谷雄一市長と議論を交え、よりよいまちづくりには何が必要か方策を探ったり、自身が今後どのような活動をしていくか考えたりした。（松橋瑠偉）

ゲストスピーカーとして招かれたのは、八戸圏域の魅力を会員制交流サイト（SNS）で紹介する3人組ユニット「海猫ふれんず」の小田桐咲さん、平沼日菜子さん、イチカワファームの市川広也さん、食育料理家のなきさなおこさん。八戸学院大学長特別補佐の玉樹真一郎さんがファシリテーターを務めた。参加者とゲストスピーカーらが各グループに分かれて行った議論では、「八戸のここが憎めない！」「楽しいマチにするためにわたしは何をしよう？」な

市長らと議論、方策探る

どのテーマで話し合った。参加者からは「青森県外から観光に来た友人を、どこに案内したらいいか分からない」といった悩みや、「地元の魅力に住民が気付けていない」との指摘が出された。「空き店舗を面白くリノベーションしてはどうか」との提案もあり、さまざまな意見が飛び交った。取材に対し、海猫ふれんずの小田桐さんと平沼さんは「多様な意見を聞ける貴重な経験になった」と話し、今後の活動につなげていく考えを示した。



まちづくりへの意気込みを語る熊谷雄一八戸市長